

無関心だった人間が
日本を愛する心で行動して
大変な目に遭ってしまったお話

解決方法は憲法を起草する会にある？

家族的な会社が グローバル化で マネー中心に！

- ▶ このままでは、大切なことを見失ってしまう
- ▶ 1998年に退職、直前まで担当した香港
- ▶ ここ数年での中国の圧力により、すっかり様変わり
- ▶ 賑やかで華やかでエネルギーに溢れ
- ▶ すべてに楽観的だった香港が
- ▶ 今では水の泡となり、消えた夢になってしまった

2002年 小泉訪朝と拉致問題で衝撃を受ける

- ▶ 日本人の安全と幸せについて考え始める
- ▶ 拉致問題解決の意見広告に賛同し、募金をする
- ▶ 横田滋さんに励ましのお手紙を出して、お返事を頂く
- ▶ 何か自分にできることはないか
- ▶ 日本が断固として、強制力を持って他国に連れ去られた同胞を無条件で助ける国になるにはどうしたらよいか、答えを求め始める

ブログを始めて、価値観が同じ人と知り合った

- ▶ 森の写真家、日本画家、林学研究者、日本の伝統に生きる人々
- ▶ 持続可能な世界、中山間地域の活性化について討議を重ねる
- ▶ 日本の未来について思考実験を繰り返し、社会実験に結実する
- ▶ 結論は共同体と伝統の維持が大事。
- ▶ むすびの里が目指すものと同じ

2008年 長野オリンピックの争乱で危機感が！ 中国人留学生が元気すぎるのどーするの？

- ▶ 外交防衛で日本のために働く政治家を育成する必要がある！
- ▶ 勢いで国会議員事務所でボランティアを始める
- ▶ 実績づくりに研究者を紹介して予算委員会の質問セッティング
- ▶ 雑用を何でも引き受ける。ビラ配りは恥ずかしいが仕方ない
- ▶ 2009年、政権交代選挙で落選！議席復帰のためボランティア続行
- ▶ 復帰後をにらみ、安全保障勉強会を立ち上げ、演習の見学も行う

前回の勉強会で説明があった 「環境醸成と情報交換」のため話します

- ▶ 憲法を起草する会が提起するような課題が最重要と考える
- ▶ 私と仲間がそう考えるには、独自の理由がある
- ▶ 拉致被害者救出と日本の浄化を志した活動の一環
- ▶ 弁護士会による朝鮮学校への補助金支給要求のたび重なる会長声明発出に抗議の主旨から、あるブログの呼びかけでこれに賛同した約1千名が、弁護士会の会員弁護士に対して懲戒請求
- ▶ 一部の弁護士から1千名の懲戒請求者が個別に提訴された
- ▶ それは差別と受け取られ、法廷での応戦を余儀なくされ3年が経過した

身体の直接的な暴力はまだないが 国家の強制力を用いた管理は始まっている

- ▶ 香港化、ウイグル化は、人目につかない所で進行している
- ▶ 公式には何度も否決されてきた人権侵害救済法案であるが
閉ざされた司法界で、事実上の人権救済機関が運用されている
- ▶ 理念法であったヘイト法の成立を受け、罰則付与への暴走
- ▶ 日本では許されていない懲罰的訴訟を先取りするかのような実態
- ▶ 差別というマジックワードで、日本人を犯罪者に仕立てる構図
- ▶ 痴漢冤罪は社会問題化したか、差別冤罪が起き始めている

弁護士会とはどのような集団か

- ▶ 左翼活動に邁進し、北朝鮮の利益を代弁している
- ▶ 政府見解によれば破防法の調査対象団体である、特定の政党と同じ主張
- ▶ 特定の政党と見解を同じくする弁護士会会長声明が多数
- ▶ 弁護士会の使命は少数者の人権を擁護することと公言
- ▶ 少数者には日本人は含まれない。なぜなら日本人は多数者だから。
- ▶ 真に救済されるべき少数者は拉致被害者であると私は考える
- ▶ 弁護士会の少数者の定義に、日本人は入らない。拉致被害者も入らない
- ▶ 朝鮮学校への補助金支給に反対することは人種差別と強弁する

多数の裁判でわかったこと 現状の法律のおかしさと運用のひどさ

- ▶ 法律と判決は国家の強制力を利用した管理
- ▶ 法的知識があれば合法的に非道な追込みが可能
- ▶ 懲戒請求は扇動による人種差別と擦り替えられた
- ▶ 差別主義者に人権はないというプロパガンダが成功
- ▶ 法的に問題ないかもしれないが、ひどい人権侵害が起きている
- ▶ 鬱病発症者、離職を余儀なくされた人、失意のうちに亡くなった人
- ▶ 人権擁護を標榜する弁護士が、やる気満々で1000人を続々と破滅させる

法律のプロがメディアと結託 一般国民を社会的に抹殺

- ▶ 裁判を正当化する盛大なネガティブキャンペーン
- ▶ 懲戒請求をするような人間は何をされても自業自得
- ▶ 弁護士が善、懲戒請求者は大馬鹿で悪者という世論を予め喚起
- ▶ NHK、日テレ、TBS、テレビ朝日、毎日新聞、朝日新聞
- ▶ 教育 司法 メディア 広告代理店
- ▶ 戦後7年間に敷かれた日本支配の構図が
未だに有効で、日本人の生活破壊にも使われている

法的強制力を、国家権力を用いた 日本人への弾圧と言える状況が既にある

- ▶ 素人に対して誰の目も届かない司法の世界で
法律のプロから結論ありきで提起された訴訟
- ▶ 仕掛けられたら、その時点で負けは確定
- ▶ 確定した判決認容額の回収は非常に強引
- ▶ 密室でことが運ばれ、現状では抑止が不可能

原告弁護士 代理人弁護士は活動家

- ▶ 慰安婦訴訟における植村隆氏の代理人
→ 神原元弁護士 (神奈川県弁護士会)
- ▶ 外国人参政権を推進する弁護士組織を設立
→ 金竜介、金哲敏弁護士 (東京弁護士会)
- ▶ あいちトリエンナーレ 津田大介氏の代理人
→ 小倉秀夫弁護士 (東京弁護士会)
- ▶ ブラック企業の被害訴訟を仕掛ける《seals後継団体と連携》
→ 佐々木亮(東京弁護士会) 嶋崎量弁護士(神奈川県弁護士会)
- ▶ 入管法改正阻止に動く弁護士《立憲共産党とのコラボ》
→ 児玉晃一弁護士 (東京弁護士会) 不法滞在クルド人の代理人

裁判で本当にあった物凄い実例

- ▶ 同一訴状でバラバラの判決 法の下での平等がない 憲法14条違反
- ▶ 原告側に立った判決が量産 被告の主張は無視 憲法32条違反
- ▶ 日本の常識とかけ離れた判決が大量生産されるメカニズム
- ▶ 訴えられたら最後、言いなりにお金を支払うしかない
- ▶ 民事執行法が改正でヤクザ顔負けの回収がOKに
- ▶ 10万20万で居住中の不動産競売、仮執行でも強制競売
- ▶ 11人から請求された、金額10億円以上 1人当たり3億円が3人！

差別・ヘイトはターゲットの刻印

- ▶ どのような「法的な管理」をしても良い存在
- ▶ 誰も声を上げられない、管理者側のやりたい放題
- ▶ 日本の収容所列島化の第一歩は既に始まっている
- ▶ 今は司法の限られた世界だが、いずれ広く展開可能
- ▶ ウイグルや香港で起きていることの縮小テスト

潰されるのを待つだけの絶望の中で 「むすびの里」を知ることができた

- ▶ 神様が助けてくれる兆しが現れた！
- ▶ 3日後には仲間になり、3週間後には熊野に居た
- ▶ 日本の国の在り方や、慣習法の存在や、考え方を伺う
- ▶ 合意から生まれる慣習法、共同体の復活、伝統の維持
- ▶ 天皇陛下の存在がとても大切なものだと言感



憲法を起草する会で提起される問題は
私にとって生死に関わる切実なテーマ

- ▶ 日本人が幸せに暮らせる法律が必要
- ▶ 法に触れなければ何をしても構わないという現状が異常

私達仲間の強み

パワーエリートの
正反対が
既にできている

我々にはすでに仲間がいて

情報を共有して孤立を回避し

気遣いお互いを守り自然に振る舞う

相互信頼,親和,集団化,情報共有,抵抗

これからの課題は

どのように社会化をしていくか